

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	量子・物質工学特別実験第二		
英文授業科目名	Advanced Laboratory in Applied Physics and Chemistry 2		
開講年度	2006年度	開講年次	
開講学期	通年	開講コース・課程	博士後期課程
授業の方法		単位数	6
科目区分	電気通信学研究科-量子・物質工学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	量子・物質工学専攻		
担当教官名	各指導教員		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
<p>各専門分野の第一線の研究や開発をリードできる研究者・技術者に必要な実践的な研究遂行能力を磨く。具体的には、調査・研究テーマの設定・実験計画の立案・実験・結果の考察とフィードバック・研究成果の発表などの一連のプロセスを主体的に実施する。研究テーマに関連する自らの理工学的基礎技術を発展させる。さらには、将来の研究分野の変化にも柔軟に対応でき自ら研究課題を設定し自立して解決できるように、研究に対する自らの方法論を確立することを目指す。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
<p>この科目を履修するために、前もって履修しておくことが必須の科目を記述してください。必須のものがない場合は、「なし」と明記してください。</p> <p>元来この項目は、ここに挙げた科目の単位を未取得の学生は、当該授業科目の履修が無理であることを意味していますが、厳格な運用には、未取得学生の措置、留年生の増大の可能性、等の問題があり、この項目の運用法については教育委員会での今後の課題としています。本年度は従来通り、学生にこの科目の履修に不可欠な知識・能力を明示するための記述としてお書きください。</p>

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】

電気通信大学 平成18年度シラバス

【授業内容とその進め方】

各指導教員の指導を受けながら所属研究室において研究活動を行う。特別輪講、特別演習とあわせて行い、完成度の高い博士論文の作成を念頭に置き、優れた研究成果を得ることを目指す。

なお本科目は1年次から修了年次にわたって履修すべき必修科目である。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

研究課題の設定・立案・実施・考察・成果の発表を通じた当該学生の達成度、研究成果の内容、当該学生の研究に対する姿勢を勘案して総合的に評価する。

【オフィスアワー：授業相談】

各指導教員が担当する。

【学生へのメッセージ】

【その他】